

陸自駐屯地紹介シリーズ 第33回

育てる基地 武山駐屯地

少年工科学校・第1教育団・第31普通科連隊他

駐屯地シリーズ編纂委員会

東京からの日帰り観光地、三浦半島横須賀市に御幸浜という地名がある。名前の由来は大正天皇が当地に行幸されたことに由来する。海上自衛隊横須賀基地の側から丘陵を超えて相模湾沿岸側に出た海沿いの地域で、鎌倉・逗子・葉山から南に下った場所であり、さらに下ると久里浜に至る位置にある。

この御幸浜に陸自武山駐屯地・海自武山基地・空自武山分屯基地が並んでいる。陸・海・空互いの間には境界となる塙、垣根の類はなく、3自衛隊合同の基地である。

東京品川から京浜急行電鉄で終点三崎口駅、そこから横須賀駅行きバスまたは横須賀市民病院行きバスに乗る。途中の景色にはのどかな半島の稜線にキャベツや大根の畑が青々とひろがっている。

約35分程でバス停少年工科学校前に着き下車をする。バス停から見回すと、間近に営門、警衛所が見え、国道134号

線の片側に沿い家並みが続き、もう一方の側に広大な自衛隊の用地が続いている。又海に近いせいだろう。かすかに磯の香を感じる。

正門前中央に歩哨の哨所があり、女性自衛官が立哨中で、用地内を覗き込んでいる筆者に不審の目を向けている様子であった。哨所の左手側に警衛所があり、中央の広い道路は30メートル先でロータリーに行き当たり、その後先は植え込みで全貌は遮られて、総じて営門からの見通しは良くない。この地の沿革をリーフレットから辿って見よう。

昭和16年11月

横須賀海兵團開設

昭和20年11月

米陸軍接収・この接収は終戦から約3ヵ月の早い接収である。

昭和33年12月

米軍から返還・陸上自衛隊武山駐屯地開設

昭和34年8月

陸上自衛隊第1教育団・生徒教育隊編成完結

昭和34年9月

海上自衛隊 横須賀教育隊編成完結

昭和38年5月

空自第101高射大隊1コ

中隊配置(ナイキ・ア

ジャックス装備)

昭和38年8月

生徒教育隊を少年工科学校に改編

平成4年4月

空自第1高射群第2高射隊

ベトリオットに

換装

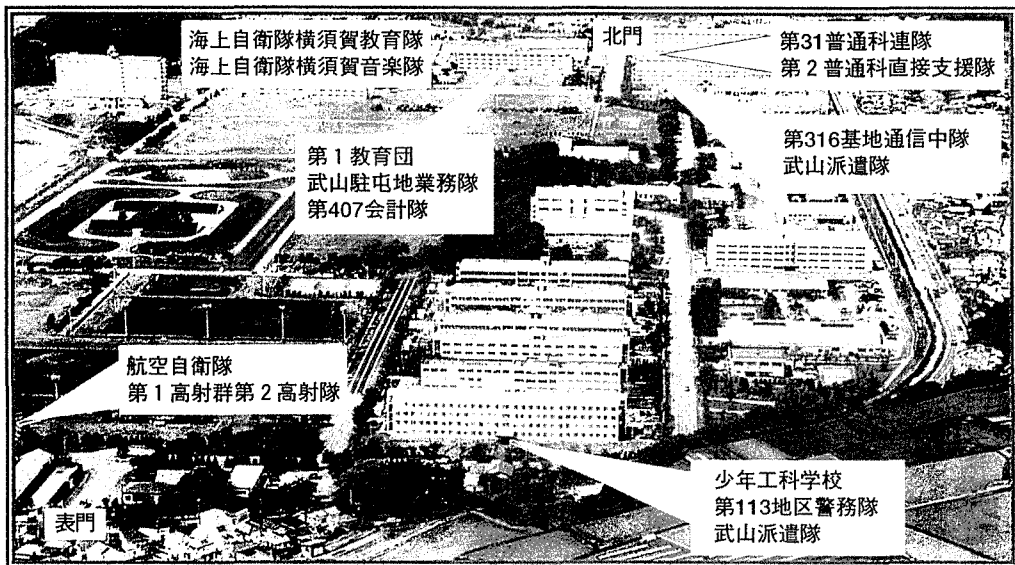
平成14年3月

第31普通科連隊、朝霞から移駐

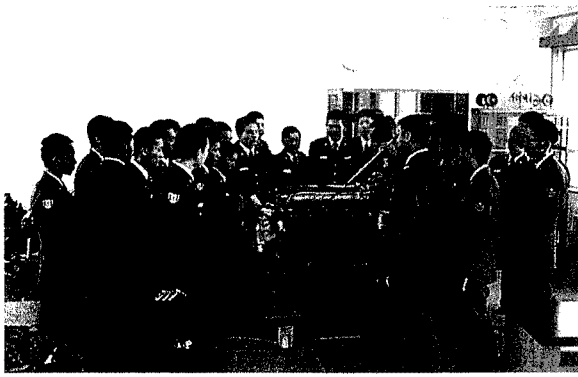
この地の旧軍時代の歴史は長いものではない。戦後すぐ米軍が接収して進駐したことから米軍の爆撃などによる被害は大きくなかったものと推察される。警察予備隊配置以後、今年で創立50周年を迎えている。

少年工科学校

警衛所で入門手続き



を終えて待つこと1分、駐屯地広報業務を担当する少年工科学校広報班から広報班長が迎えに来た。



車両エンジンの概要説明

営門間近のロータリーを右に曲がるとすぐ屋上に国旗掲揚柱のある少年工科学校本部隊舎が目に入り、その真下の玄関についた。国旗掲揚は野営訓練等で不在にならない限り少年工科学校生徒が行うが、これが「国」を強烈に意識する機会だったとの所感が多いとのことであった。なお、この陸上自衛隊駐屯地ではもう1カ所、第1教育団で国旗が掲揚されているとのことである。

少年工科学校本部隊舎の玄関に入り周りを見回した。まだ日本が豊かでない頃の特徴で、装飾的な壁や柱立てや飾りは無く、広さも不十分

な玄関ホールであるが、その狭い玄関の壁一杯に記念品が展示されており、そのことさえ狭苦しく感じられた。第一印象は「早くなんとかしてやって欲しい」「外国からの訪問者に見せられるものではない」というものであった。広報班のソファアに腰を下ろす間もなく、資料展示室に案内された。案内の陸曹がぐるまで一人で展示物を見て回った。次の部屋に通じる扉をくぐった途端の衝撃が大きすぎた。殉職者を顕彰して写真が飾られていた。東側壁にはこの学校出身者が卒業後全国に赴任し、その赴任先で職務中に殉職された方々のお写真が飾られていた。

中に知っているヘリコプター・パイロットの顔があった。若い頃の写真である。一人のパイロットには子供さんがいた筈、その子供さんも今はなくなられたお父様と同じような年齢になっておられる筈、遠い日の驚きと悲しみの時の思いと、歳月の流れを改めて感じたことであった。

更にその反対側の壁にはもつと厳粛な思いに引き込まれる13枚の写真が飾られていた。昭和43年7月2日、現在の本部隊舎の東側にあつた池で訓練中の生徒が教官に続いて池を渡るべく水に入ったところ、足をとられて溺れ、13人が帰らぬ人となった。雨の後の増水で水深が増し、また銃を放してはな

らないという身に付いた日頃の教えが災いしたという。セピア色に風化しかけている写真の顔は、青年というより少年、むしろ子供に近い顔つきのままにここで40年近い年月を過ぎた今も、参観者に何かを語りかけようとしていた。

少年工科学校の設立

再び広報室に戻り、少年工科学校について説明を受けた。

この学校は「自衛隊生徒として採用された自衛官に対して、施設器材、通信器材、火器・車両・航空機の整備・操作その他の職務を行う為に必要な教育訓練を実施する」ことを任務としている。卒業生は自衛隊の多くの部隊で活躍し、今や不可欠の人材源となっている。

その採用は試験によるものであり、優秀でなければ合格は難しい。たまたま、昔日の幼年学校に位置する学校と取り違える人もないでは無い。年齢的にはそれほど相違はないが、幼年学校の卒業生は、士官学校へ進み、やがて陸軍将校になることを前提としていたが、少年工科学校は陸上自衛隊の技術を必要とする部隊の陸曹を養成するのが目的である。また在校間に神奈川県立湘南高等学校普通科課程の教育を受け、その卒業資格を付与される。

余談であるが幼年学校では終戦直前



行進訓練 (全学年)

の一時を除き、また軍人家族、戦死者遺族を除きかなり高額な月謝が必要であった。現時点までの少年工科学校生徒は、学年に応じて3等陸士から陸士長まで階級に応じた俸給を受けている。

少年工科学校の組織

校長に陸将補を配置し、1等陸佐の副校長を置き、企画室、総務部、専門基礎学(技術教育)を担当する第1教育部、高等学校普通科課程教育を担当する第2教育部、生徒の訓練及び実技教育を担当する生徒隊に分かれていく。なお訓育にあたる区隊長に卒業生が多く、班長たる陸曹には学生の特別活動(クラブ活動)を指導し得るエキ

スパートが選ばれているとのことであつた。

少年工科学校の施設

少年工科学校の学校施設は駐屯地の南西部に固まり、武山駐屯地陸上自衛隊部分の約40パーセントの20万平方メートルを占め、本部隊舎、教室舎、生徒舎、医務室、体育館、練武館、浴場、食堂、総合グラウンド、野球場、ラグビー場がある。ここで生徒は特別活動の20種目を超える運動種目、同じく20種目を超える文化種目に若い情熱を燃やしている。

少年工科学校の教育課程と内容

教育期間は4年間で前期、中期、後期に分かれている。前期は少年工科学校で実施され、1年から3年まで、高校課程の国語、数学、英語を初めとする10科目の一般基礎学と専門基礎学を学ぶ。4年次になると併せて一年間の中期、後期の教育を受ける。中期はそれぞれの専門に従い、高射学校、航空学校、通信学校、武器学校、施設学校で行われ、後期はそれぞれの部隊で実習を行う。訓練は前期3年間を通じて自衛官として必要な戦闘訓練などの教育訓練を受け、その他に特別活動として、クラブ活動、生徒会活動、ホームルームがある。

卒業生の進路

4年の教育期間を終えて卒業すると

原則的には3等陸曹に任命され、技術を必要とする部隊で活躍する。しかし別の道を選ぶこともある。陸曹候補生としての道、陸曹として勤務経歴を重ね、部内選抜の幹部候補生試験を経て幹部として歩む道、一般大学卒業資格を得た後に部外幹部候補生試験を経て幹部の道を進む道、推薦または試験を経て防衛大学校に進み卒業後幹部として歩む道、防衛医科大学校へ進む道などが開かれている。随所に覇気ある勤務ぶりを披瀝して重用されて評価は高い。現在最高の職務にある卒業生は陸上幕僚副長(陸将)であり、以前には方面総監を務めた卒業生もいた。

若士の考察

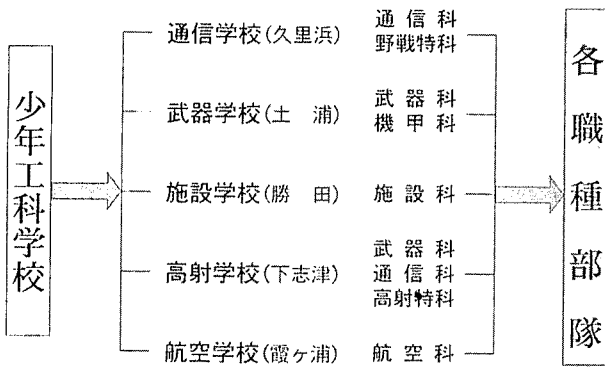
筆者にとつて思いがけない出会いがあつた副校長小山田1佐は、同じ航空管制特技出身で、かつて何度か市ヶ谷の陸上自衛隊管制気象隊長室を訪ねて航空管制気象に係る雑談を交わした間柄であつた。その時の高い意気そのままに現在少年工科学校変革に備えて大奮闘中であることが窺えた。だがその変革の内容を取材することが実にやりにくいことであつた。肝心なところで「そのことは未定」と曖昧な返答になるのである。

詳細は未だ現在検討中のことであり、企画の責任者たる副校長が話せる問題ではない。当方は自衛隊からス

クラブしよう等の考えは些かもない。部隊が迷惑するくらいなら取材などするまい。そんな思いを重ね自分なりの考えを得た。

第一に変革を進めるに当たっては少年工科学校の存在意義を正しく探し当てたらしいということである。陸上自衛隊の精強に貢献してきたこれまでの実績と、今後に期待する所は、財政逼迫からの節約策と引き替えにして良いものでは断じてあるまい。第二にここ数年下がり続けている少

卒業後の進路



年工科学校志願率低下に有効に対処しうる魅力ある完成像を目指して欲しい。この完成像は志願者も親族も教職者も満足しなければなるまい。そのためには、教育内容、卒業後の処遇から進路を拓く事、魅力有る制服のデザインまで広範多岐に渉るものが必要であらう。

少年工科学校生徒が自衛隊定員外となつた場合、俸給は学生手当となり額は下がる。この問題は慎重に考えて欲しい。かつて、日本の家庭全般が貧しかった頃若い自衛隊員は、小遣いを削って送金し、家族の生活費や弟妹の学資として援助した者がいた。自分の将来と、生家の経済援助の両立を図つたのである。現在も同じ状態にある志願者がいた場合、これを切り捨てることは人材を拾ひ損ねることにはならぬいだらうか。交通遺児やシングルマザーの子として育つた者は、現在もいるはずである。彼らは自身の事情を表すこと無く、明るく振るまつている。

第三に、変革事業はおそらく長期整備計画で着手するであろうが、努めて早期年度で骨組みを完成する必要がある事である。教育陣と教育用設備では経費の節約を理由とする手抜きや間に合わせはあつてはなるまい。副校長のほとぼる様な熱意に、大きく頷きながら聞き入つた次第である。

第1教育団

第1教育団は本部を武山駐屯地、隷下部隊の女性自衛官教育隊を埼玉県(東京都)朝霞駐屯地、第3陸曹教育隊を静岡県板妻駐屯地、第17教育大隊を武山駐屯地、第1機甲教育隊を静岡県駒門駐屯地に分散配置している。

隷下の部隊が教育する人員は年間約3千名に達し、団本部はこれら様々な教育訓練の本部業務を行っている。

ここで他の駐屯地に及ぶ団の隷下部隊について要約を述べる。

まず女性自衛官教育隊は女性陸士及び全国の女性陸曹候補者に対して「強く・明るく・麗しく」をモットーに職種共通基本教育を担任している。次に第3陸曹教育隊は関東甲信越及び静岡



教育団の修了式

県に所在する全部隊の陸曹候補生前期教育を担当し、小部隊指揮官としての必要な資質・知識・技能の教育を行っており、さらに平成17年からは陸曹を対象とした初級英語教育及び上級陸曹教育を実施している。

次に第1機甲教育隊は全国の機甲科職種(戦車・偵察)部隊の陸曹候補生課程・陸士新隊員課程の教育を担当し機甲科隊員として必要な資質・基礎的知識・技能の教育を行っている。

第17教育大隊は全国から入隊した男子陸曹候補生(入隊の時から陸曹候補として指定を受けている陸士であったり、陸士として勤務している間に実績と知識を積んだ後に陸曹候補者に指定される陸曹候補生とは異なる)及び東部方面隊管内、(関東甲信越静岡県)の男子新隊員の教育を行うとともに後述の予備自衛官補の教育を行う部隊である。

第1教育団本部では副団長米村1佐に対応して頂き、そこで幾つかの話を聞いた。紙数の都合で特に印象深かった事柄を選んで述べたい。

その第一は入隊者の体力低下についてであり、その顕著な例として投擲力の低下であった。ボールを満足に投げられない者がふえているのである。他の身体的能力低下は推して知るべし、子供の頃の運動不足、ゲーム機漬けが

もたらした弊害である。これらの入隊者に体力を付けさせる為には従来の厳しい鍛練の継続とは異なり、初歩からの体力増強の処方を推進中で、成果を挙げつつあると述べられていた。

その第二は、人間として、日本人として、社会人としての常識が入隊後の教育によって顕著に身につけて行くさまがはつきりと確認できているということであった。今日、挨拶が出来ない若者が横行していることは多くの人が感じるところであるが、着隊から入隊式挙行の日までの僅か1週間の間に変化を遂げ、息子から挨拶を受けた母親が驚いた例さえあり、まして卒業式に列席した両親は見違えるほど成長した我が子の姿に感動の所見を述べる事が少なくないという。

第三に、数年前、暫く好況を続けた新隊員募集が今また苦境に変換したという事について、その影響は地方協力本部ばかりでなく、教育部隊もその影響をものを受けており、これからしばらくの冬の季節を乗り切るべく覚悟している事が窺えた。

第四に、これは広く多くの人に知って欲しいと思ったことがあった。「予備自衛官補」の制度である。「予備自衛官」となる為には自衛官としての経歴が必要であるが、この予備自衛官補になるためには自衛官としての経歴は

必要無く、特に予備自衛官補(技能)は18歳から55歳までと幅があり医療従事者、語学、情報処理、通信、電気、建設、自動車整備などの公的資格を持つ者ならば2年間で10日、年間5日の訓練出頭をすれば良い制度である。

招集訓練出頭手当は2年間で7万9千円で、前述の公的資格を持つ人に必ずしも経済的魅力となる程ではない。しかし我が国の安全保障に直接関わるという大きな志を持つ者にとつては、招集訓練で受ける技能は大いに役立つ、これにより、我が国の平和と安全に関する理解の輪が広められる為にも招集訓練は大いに役立つであろう。

また防衛省・自衛隊と関係なく個人が海外で外国人に交じり、或いは日本人同士がチームを組んでNPOメンバー等として国際貢献活動で雄飛するという志を持つ者にとつても、招集訓練で受ける知識・技能は大いに役立つ、また予備自衛官としての階級は海外では(予備)陸軍伍長(予備)陸軍中佐の評価を受け、リーダーとしての地位を得ることもあろう。海外活動では技量に応じた至当な地位につく事が出来る。又危険を回避する能力を身に付けるためにも価値ある人事制度である。因みに予備自衛官(一般)は18歳から34歳を対象に、3年間で50日の訓練を経て予備自衛官となる。

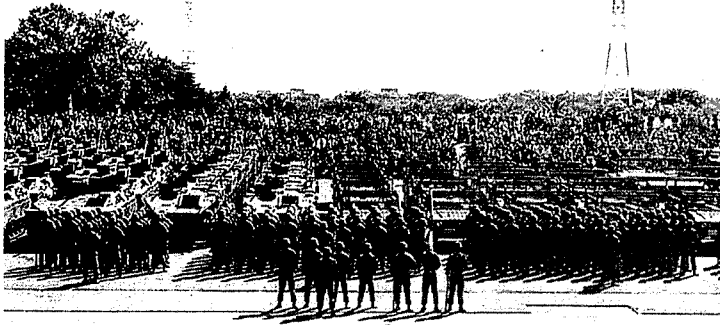
第31普通科連隊

第31普通科連隊は大きな試練をくぐった。その試練とは長く所在した駐屯地から別の駐屯地へ移転したこと、移転に伴い即応予備自衛官指定部隊に変わり、隊務の様相が大きく変わったことである。

昭和37年1月
千葉県習志野駐屯地で編成・創隊

昭和37年2月

埼玉県朝霞駐屯地に移駐



中央観閲式の第31連隊

昭和38年2月

新潟豪雪災害派遣

昭和39年10月

東京オリンピック支援

平成元年2月

昭和天皇大喪堵列参加

平成2年11月

今上天皇即位の礼堵列参加

平成3年9月

台風19号災害派遣、埼玉県朝霞市

(この日は連隊戦闘団検閲前日)

平成7年1月

阪神淡路大地震災害派遣

平成12年7月

伊豆神津島近海地震災害派遣

UNDOF派遣

平成12年8月

三宅島噴火に伴う災害派遣

平成14年3月

即応予備自衛官指定部隊に改編

平成16年11月

新潟中越地震災害派遣

平成18年2月

イラク復興支援群参加

以上は概略であるが、このほかの小さな活動の歴史を合わせ見ると、朝霞時代の連隊は首都近傍の第一線部隊として大きな役割を果たしていたことが分かる。現在は即応予備自衛官指定部隊と変わり、計画に従って招集された即応予備自衛官と共に訓練に励んでいる。

る。即応予備自衛官制度とは、自衛官

として1年以上の訓練をした者が、退

職後民間企業等に勤務しながら即応予

備自衛官となる事を志願し、毎年所要

の訓練に出頭して訓練を重ね、いざと

いう時には自衛官となつて勤務する制

度である。その核となるのが即応予備

自衛官指定部隊であり、第31普通科連

隊はその一つである。その組織には連

隊本部、本部管理中隊、第1中隊、第

5中隊までで、重迫撃砲中隊や対戦車

中隊等はない。

更に、各中隊毎に招集された即応予

備自衛官を訓練する拠点駐屯地が異

なっている。第1中隊は静岡県板妻駐

屯地、第2中隊及び第3中隊は埼玉県

朝霞駐屯地、第4中隊は千葉県習志野

駐屯地、第5中隊は古河駐屯地でそれ

ぞれ近傍から即応予備自衛官を招集し

訓練を行っている。即ち連隊は広く関

東地方に中隊を展開して即応予備自衛

官の各個及び部隊訓練を行っているの

である。

この制度であまり知られていないの

は、即応予備自衛官を雇用し、所定の

招集訓練に応じることを認める企業に

対しては、月4万2千円、年間合計51

万円の給付金を支給する事になってい

る。即応予備自衛官に対しては訓練出

頭条件を満たせば年間平均60万円が支

その他の陸上自衛隊部隊

前述した部隊・学校を支援するため

次の部隊がある。

武山駐屯地業務隊

第1後方支援連隊第2整備大隊

第2普通科直接支援隊

第407会計隊

第316基地通信中隊武山派遣隊

第113地区警務隊武山派遣隊

終わりに

取材している間に、重い気分にとら

われた。ここにある少年工科学校、第

1教育団、第31普通科連隊が時代をま

ともに受けている事に思いが至ったの

である。少年工科学校は公務員総定員

法により廃止の危機にさらされ、辛う

じて変革で乗り切り、第31普通科連隊

は即応予備自衛官という厳しい制度の

中で奮闘し、第1教育団は迫り来てい

る募集難取りわけ採用新人隊員の素質

との闘いを続けている。しかも隊員は

そんな事をおくびにも出さず挑戦の姿

勢を崩していない。我々元自衛官には

只見ているしかないのか。そんな思い

に浸った俣、駐屯地を後にした。

終わりにこの取材に当たり取材に協

力頂いた少年工科学校、第1教育団、

第31普通科連隊の広報担当の方々に関

からお礼申し上げます。

文責 松村興延 陸自64